

「超音波内視鏡ガイド下肝生検における術者習熟度が組織採取能に与える影響： 初学者と熟練医の比較研究」のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年2月9日～2029年3月31日

〔研究課題〕

超音波内視鏡ガイド下肝生検における術者習熟度が組織採取能に与える影響：初学者と熟練医の比較研究

〔研究目的〕

本研究の目的は、超音波内視鏡ガイド下肝生検において、初学者と熟練医の間で組織採取のアウトカムに統計的に有意な差が存在するかを明らかにすることです。

〔研究意義〕

超音波内視鏡ガイド下肝生検は、肝疾患の診断において安全かつ効果的な手技として確立されつつあります。しかしながら、超音波内視鏡ガイド下肝生検という特定の手技に焦点を当てた場合の習熟度曲線や、特に初学者が熟練医と同等の組織採取能を発揮できるかについては、十分なデータが存在しません。

本研究では、超音波内視鏡ガイド下肝生検において、初学者と熟練医の間で組織採取のアウトカムに統計的に有意な差が存在するかを明らかにすることを目的とします。

この結果により、適切な指導とトレーニングが行われれば、超音波内視鏡ガイド下肝生検が初学者にとっても習得可能であり、臨床現場で質の高い検体を安定して採取できる可能性を示すことができます。これにより、超音波内視鏡ガイド下肝生検のさらなる普及と、肝疾患診断への貢献が期待されます。

〔対象・研究方法〕

研究は、2014年4月1日から2024年12月31日までの期間に、当院で超音波内視鏡ガイド下肝生検を受けた患者様を対象にします。

調査する内容は主に以下のとおりです。

術者情報（熟練医・初学者の分類）、吸引技術・使用デバイス、採取組織の測定値：組織長（mm）・表面積（mm²）・グリソン数、穿刺関連情報：穿刺距離・穿刺角度、患者様情報：年齢・BMI・血小板数・MAFLDの有無・線維化スコア、実施時期など。

これらの情報は個人を同定できないように加工した後に当院研究事務局内の研究データベースに登録します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、対象となる方の個人を同定できる情報は一切使用致しません。研究終了後、電子化したデータセット等を帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄します。

対象となる患者様あるいはご家族で、患者様の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者:土井 晋平 (教授)

研究分担者:松本 光太郎 (講師)、苗村 佑太(臨床助手)

所属:帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科

住所:〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1 TEL:044-844-3333 (代表)